

AALAカフェ第22回

코리아半島をめぐる今とこれから(下)

日韓の平和構築を歴史と真摯に向き合って考える

正しく知れば、もっと好きに仲良くなれる

日本코리아協会・大阪 飯田光徳さんの講演から

3月27日(土)AALAカフェ第22回「코리아半島をめぐる今とこれから」について、講師・日本코리아協会・大阪理事長の飯田光徳さんの講演から、本紙用の講演概要版を作成して前月号から紹介していますが、今月号はその後編です。

講演の目次

- I 頭が硬直していませんか？
- II 明治維新までの日朝関係は 一時期を除いて友好的
- III 明治維新以降の日朝関係
- IV ミサイルを撃ち続けてきた…北朝鮮って？
- V 南北そして北東アジア、アメリカの出方は

(以下今月号で掲載部分)

- VI 収まる気配のない日韓の「泥仕合」
- VII 日本の保守層が嫌韓の態度をとるその真相(深層)は？
- VIII 徴用工・日本軍「慰安婦」問題は人権問題
- IX 憲法9条に向けられる北東アジアの仲間の熱い眼差し

VI、収まる気配のない 日韓の「泥仕合」

今回の「泥仕合」の経過で、問題は、日韓の歴史の節目、1965年体制《日韓基本条約・請求権協定など》です。

Q3 「日本は植民地にしたことで補償したのか？」

してません。これは、謝罪、補償は必要ないという立場にたっています。日韓併合の条約が対等平等に結んだ条約だ。だから謝罪する必要もないし補償の必要もないというのが基本的な立場で、賠償はしてません。経済協力、3億ドルの無償資金と2億ドルの有償資金の5億ドル。そのほかに民間の借金が3億ドル。これは要するに経済協力で、現金でなく日本国の生産物と日本人の役務で、要するに日本の企業が儲ける。

日韓国交回復のスタートは完全に誤った方向で始まり、植民地問題は解決していない。日本軍「慰安婦」、徴用工問題が再燃する。

VII、日本の保守層はなぜここまで嫌韓の態度をとるのか？その真相(深層)は？

1965年に日韓基本条約を締結した時の役者から見たらわかります。日本は佐藤栄作で、安倍晋三の大叔父です。パク・チョンヒ(朴正熙)は、今、つかまって家を何億円かで処分されて差し押さえされてしまったパククネのお父さん。

実はパク・チョンヒという人は、東京の陸軍士官学校を出てそのあと満州国軍の将校になる。戦争が終わったあと、韓国軍の将校になってクーデターを執行して大統領まで上り詰める。この時に日韓基本条約を結んだ。

満州国の経済政策を作ったのは岸信介、安倍の祖父。だからパク・チョンヒは安倍の祖父が作った経済政策、国家社会主義とっていいと思うが、国が大量の資本を投入することによって爆発的な経済成長を生む、そのスタイルを満州国で学んで、人脈もできている。そして日韓基本条約を、アメリカからのプレッシャーもあってやっと結ぶ。謝らすこともせず、いろいろな設備投資、インフラ整備をする。韓国としてはちょっと儲からないと思うのですが、それは佐藤を含めた日韓の保守層の、満州で暗躍したネットワークの中でそういう妥協をした。

だから韓国社会というのは、アメリカべったりではだめだということと、こういう戦後の保守政治を清算しなかったらだめだということと、日本との関係においてはその保守政治が妥協した点をもう一度きっちりと清算し直すべきというのが市民社会の中にあるのです。

VIII、徴用工・日本軍「慰安婦」問題は人権問題

…歴史と向き合い、常に振り返りをする事、そして世界の人権の流れを見る事が重要だ

徴用工、日本軍「慰安婦」問題では、これは人権問題として、きっちりとおさえておく必要があります。

今、世界の流れるに言うと、植民地にしていろいろトラブルを起こしたということは許されないことだという流れになっている。これはダーバン宣言^(注)というのがありますが、そういう流れになってきています。

(注)2001年「人種主義、人種差別、外国人排斥および関連のある不寛容に反対する世界会議」が南アフリカ・ダーバンで開催された。

今いろいろな国際法上の人権の取り扱いというのが非常に厳しくなっているが、日本はこの間の日本軍「慰安婦」問題の裁判にいっさい相手をしなかった。1月に判決が出て、何もしなかったから裁判は韓国で確定してしまいました。なぜ日本政府がそういう対応したかと言うと、外国は国を裁くことはできない。だから何もしないというやり方でした。

「主権免除」には例外がある

日本政府は「この判決は主権免除に違反する」と非難している。主権免除とは、主権国家は平等なので、国が他国の裁判権に服することはないという、日本はこれですべて門前払いしています。

慣習国際法上の規則である。しかしながら、絶対的な主権免除主義が支配的だったのは20世紀のことです。こういう考え方は、もう時代遅れで、例外がある、それは人権。

「人権例外」の登場

要するに、裁判を受けて人権が回復されるということが「主権免除」よりも優位にある。

しかしながら、2000年以降ぐらいにこういうことがヨーロッパで起こってきており、だからまだ日々20年間ぐらいのことです。これはダーバン宣言なんかと連動して国際法上の動きとして出てきています。

国家中心の古い国際法と、人権保障を国際法の目的とし、個人を国際法の主体と位置づけていこうとする新しい国際法の対立の反映で、その中の一つのあらわれとして韓国の裁判がある。

日本政府は昔、ちゃんと裁判をしたこともあるのです。2000年の日本軍「慰安婦」問題、2000年に韓国、中国、フィリピン、台湾の日本軍「慰安婦」被害者15名が米国のワシントン連邦地裁に日本国を訴えたことがあった。このとき日本政府は訴訟手続に応じ、ワシントンの法律事務所に依頼して45頁におよぶ申立書を提出して主権免除などによる却下を主張したのです。

問題なのは、一部の野党、立憲民主も論外だと言っており、それがちょっと問題です。だからやっぱりきっちりとマスコミも含めて議論がされて、今や国家の立場より人権の方が重いという話が行われることが大切だと思います。そういうことがきっちり行われれば、徴用工問題でも、解決の道というのが生まれる。

IX、憲法9条に向けられる北東アジアの仲間の熱い眼差し

最後に憲法9条と北東アジアについて話します。

私、3回、憲法9条にかかわる国際フォーラムで、チュンチョン、板門店の会議に参加させてもらいました。そこで事務局をやっている大学教授のユン先生という方がおられます。

このユン先生が「日本国憲法9条は主権国家の日本の法の条文を超え、北東アジア地域の軍拡競争を防ぎ、戦争を予防し非核地帯を拡散する国際平和のメカニズムとしての役割を果たしてきました。つまり、象徴的にアメリカと中国が保有している核兵器よりさらに強力な平和のための抑止力の意味を持っている」と言われたのです。

あまり、私などはこんなふうに考えてこなかった。日本は憲法9条持っていて外国の人も殺さなかったし日本人も戦争で死ななかってよかった、とそれぐらいでしか思ってなかったのですが、平和のメカニズムだ、というのです。

過去500年間の北東アジアの戦争

北東アジアの戦争について、過去500年間を調べてみました。(年表参照)

戦争らしき戦争は14回ありました。14回中、実は簡単にいえば、※印は、全部日本がやりました。▲印は、日本が侵略したり、植民地にしなかったらおこらなかつたというもの。※▲で14中12。北東アジアで戦争らしい戦争が14あって、10もしくは12が日本がらみの戦争なのです。

今、中国の脅威がとかいってますが、中国が戦争したのは中ソの国境紛争と中越戦争だけ。両方とも国境がらみ。北東アジアで500年間で戦争しているのは日本だということです。

戦後 70 年間、憲法 9 条のおかげで北東アジアでは、ほぼ戦争はなかった。だから憲法 9 条はすごい。これをしっかり見て運動していく必要があると思います。

在日の詩人の言葉から

◆引き裂かれた同胞の融和をそしらず、隣人として、分断の痛みに想像力を働かせてほしい<キム・シジョン>
大阪を拠点に活躍しておられた在日の詩人です。

対馬藩の学者の言葉から

◆真実を持っての交わりを誠信というのであって、朝鮮人は日本人を欺かない、日本人は朝鮮人を欺かない、そして互いに真実を以って交わることが、誠信の交わりである<雨森芳洲>
江戸時代の雨森芳洲という対馬藩の学者です。

やはり、こういう気持ちで民間の交流をすすめることができるんじゃないかと思っています。

北東アジア・過去 500 年間の戦争

- 1592 年-1598 年-文禄・慶長の役
(壬辰・丁酉倭乱 [ジンシン・ティユウワラン]) ※
- 1600 年 琉球侵攻※ (沖縄植民地化)
<この 200 数十年間=徳川の平和外交を推進、朝鮮とは対等平等
の外交を展開…注目! >
⇒ 朝鮮通信使…… 「世界の記憶」 (2017 年)
- 1894 年-1895 年-日清戦争※ (台湾植民地化)
- 1899 年-1901 年-義和団戦争(北清事変/8 か国連合軍が出兵)※
- 1904 年-1905 年-日露戦争※
- 1914 年-1918 年第一次世界大戦(対独参戦、チンタオ占領など) ※
- 1918 年-1922 年-シベリア干涉戦争(ロシア革命への干涉) ※
- 1926 年-1949 年-国共内戦▲ (中国での国民党と共産党の内戦)
- 1931 年-1933 年-満州事変
(~1 次上海事変/45 年の敗戦までを十五年戦争と呼ぶ) ※
- 1937 年-1945 年-日中戦争※
- 1939 年-1945 年-第二次世界大戦(41 年- アジア・太平洋戦争) ※
- 1950 年-1953 年-朝鮮戦争▲
- 1969 年 -中ソ国境紛争
- 1979 年 -中越戦争(1984 年-中越国境紛争)

【※の付いた 14 分の 10 という数字を直視しよう!!

▲も日本の侵略がなければ・・・】

以上